

東京病院ニュース

第31号 2011年4月1日発行



発行元 独立行政法人 国立病院機構 東京病院
〒204-8585 東京都清瀬市竹丘3-1-1
TEL 042(491)2111 FAX 042(494)2168
ダイレクト・イン・ダイヤル 042(491)4134
ホームページ <http://www.hosp.go.jp/tokyo/>

新しい平成23年度のスタートのあたって

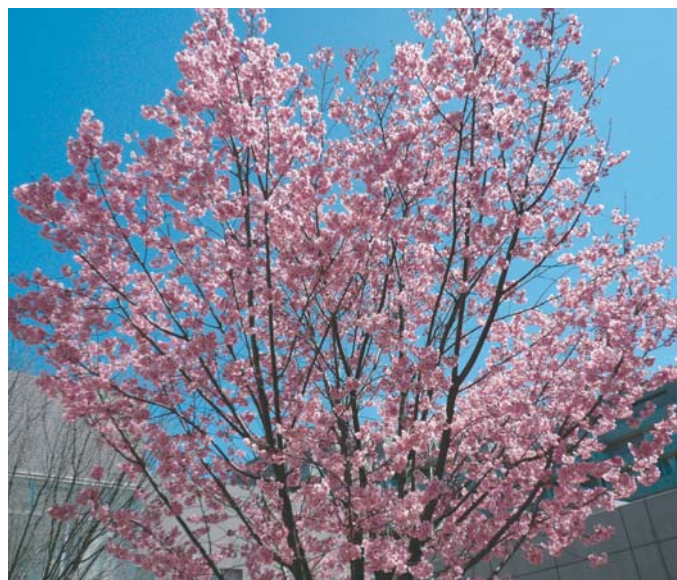
春、東京病院の桜の園が華やかな季節になりました。新しい年度を迎えるにあたって、ご挨拶を申し上げます。

まず去る3月11日三陸沖で起こった未曾有の巨大地震と津波の襲来、さらにその後の広範囲な震源による大地震の連続、そして福島原子力発電所の過去世界で2番目に深刻な事故により被災され避難されている皆様、および身近な方々がそのような災難に遭われた全ての皆様に心よりお見舞い申し上げます。現場より遠い関東にいるものにとって、一刻も早い支援とお困りの方々の受け入れをさせていただきたいと思っております。このような国難ともいえる事態に対して、日常的診療をさておいても病院として何ができるか、国立病院機構本部等と連携を取りつつ対処して行く所存であります。

さて話は変わりますが、今回は当院の救急告示病院化と12月からの電子カルテ化について院外の皆様にお知らせいたします。当院では昨年8月1日をもって救急告示病院となりました。救急告示病院というのはその病院での診療可能な救急患者を受け入れるものであり、急患の全てを受け入れる二次救急病院とは異なります。当院の規模や医療資源は少なくとも清瀬市では第1位であり、北多摩北部2次医療圏の中でもベスト3に入るかもしれません。国立病院機構の第2次中期目標の中に「地域医療への貢献」が明確に掲げられたなかで、地域医療における当院の役割についてここ数年間議論を重ねてきました。当院は旧結核療養所から出発し、慢性呼吸器疾患中心の医療から、リハビリテーション、神経難病、肝疾患というように診療範囲を拡大、さらに消化器一般、癌の放射線療法、循環器科、整形外科、眼科、アレルギー科など地域医療へむけて診療科を増設しました。非常勤ながら耳鼻科、泌尿器科の外来を開設し、今年4月から糖尿病外来も始まります。これらの過程でその中心となる呼吸器科は結核病床100床、非結核病床200床、レジデントを含め医師30人程度の大診療科となり、一昨年6月からは呼吸器領域の緊急・救急患者の受け入れも始め、昨年10月には呼吸器疾患センターを立ち上げました。しかしこのように診療科が多岐にわたって来たとはい

国立病院機構東京病院院長 中島 由槻
えそれぞれの医師の充足は十分ではなく、残念ながら当院は全ての患者を受け入れられる機能を現在持ち合わせてはいません。そこで当院としてはまず出来る範囲から地域医療に貢献していこう、地域の急患を受け入れていこうという事をスタートしたわけでありました。

次に昨年12月、当院は電子カルテを導入しました。しかし現行の電子カルテシステムが今だに安定せず、医師を含め職員が非常に苦勞し、情報の正しい伝達を基本とした医療安全対策に気を遣いながら稼働させています。そのため患者様はもとより院内外の方々に大変なご迷惑をおかけし、心よりお詫びいたします。このシステムの導入に際して様々な経緯はあったにせよ、準備不足であった事は管理者として深く反省しています。ただその状況においても、職員一同当院で培ってきた医療のレベルを落とすことなく、皆様の要請にこたえるべく懸命に業務を遂行しております。もちろんご紹介の患者様の受け入れや救急患者の受け入れ・診療も従来通り行っております。どうか患者様を始め東京病院連携医の方々、そして日頃ご協力、ご支援をいただいている全ての関係者の皆様にご理解をいただき、さらなるご支援をいただきますよう心よりお願いいたします。



独立行政法人国立病院機構東京病院

理念

医療を受ける人の立場に立って、人権を尊重し、安全で質の高い医療を提供します。

基本方針

- 医療の安全管理に万全を期し、患者本位の医療を提供します。
- 地域医療機関との連携を図り、地域に信頼される医療を提供します。
- 医療従事者の教育・研修に努め、医療に関する情報を提供します。
- 健全で安定的な病院運営に努めます。

退職者紹介

退職にあたって

薬剤科長 根本 満

平成20年4月1日に、ここ東京病院に薬剤科長として災害医療センターより配置換えとなり3年間勤務させていただきました。その間、薬剤科の皆さんをはじめ他職種の方々にも多大なご協力をいただきありがとうございました。

振り返ると38年間の勤務中、9回の転勤と18年間の単身赴任を無事過ごせたのも、妻そして家族の協力もあったからと感謝しております。

あっという間に駆け抜けてきたように感じています。その間、施設の委譲に伴う業務整理、中越地震による災害援助、総合医学会準備等、貴重な経験を積ませていただきました。

また、東京病院では明治薬科大学が近隣にあるため、他施設以上に薬学生の教育にも深く携わらせていただき、医局の先生方のご協力の下、多くの薬学生の実務実習を実施でき、感謝しております。

電子カルテにおいては、多くの医局の先生方に、薬剤科を後押ししていただきありがとうございました。

退職まで3週間というときに大地震が起こり、忘れぬ退職記念となりました。今後は、薬剤師として国立医療とは離れた医療現場で過ごすこととなりますが、今までの経験を生かして頑張るとともに家族サービスを心がけようと思っております。

最後に東京病院の皆様の益々のご活躍、ご検討をお祈り申し上げます。

退職にあたって

1病棟 渡部 ミサ子

東京病院に私が就職したのは1977年10月です。今

でも都心の病院に比べたら緑がいっぱいですが、30年前はもっとも自然が豊かでした。今の仕事大の場所は東京病院の林で、一角には県木園などがありました。東京都の木は何か、自分の出身地の福島県の木は何であるかは覚えていません。また、現在の病院の前にある高層マンションと周りの住宅があるところの以前は三菱グループの広大な運動場が広がっていて、中にはテニスコートやプールなどがあり、病院の職員も庶務課で無料券をもらいプールに入ることができ、自分も何度か行きました。二階の病棟の廊下でガマガエルを見たこともあります。夏になるとカブトムシやクワガタを患者さんがとってきてくれました。昔懐かしい思い出です。最初の職場は結核病棟で一ヶ病棟99床でした。今では考えられません。肝臓病棟、このときは病棟開設に携いました。神経内科では難しい病気の患者さんに関わり勉強することが多くありました。呼吸器内科、今の5西病棟昔は2病棟でした。そこにはリカバリールームがあり常時レスピレーターを付けている患者さんが3～4人位いてそれを一人で受け持っていました。そんな時もありました。リハビリ病棟、緩和ケア病棟、いろいろ経験しました。唯一経験をしていないのは外科病棟です。それが少し残念で、できたら全部制覇したかったです。病院もいろいろ変わっていき、病院の建て替え、看護支援システムの導入、最後には電カル導入と60の手習いになってしまいました。その時々に対応するため辛いこともありましたが、今ではいい思い出です。このように長く務められたのも周りの方々に助けられたおかげと感謝しています。私は看護人生をこれで終えようとしていましたが東北に起きた大地震を目の当たりし、何か自分に出来ることはないかと考えております。みなさんありがとうございました。

第二の人生に乾杯

2病棟 齊藤京子

定年の時期になり、就職した当時のことを懐かしく思い出しているこの頃です。桜の園の桜の木は、背が低く横に伸びた枝に手が届いていました。桜の園一帯は、武蔵野を思わせるたくさんの木々が生い茂り、花が咲き、鳥がさえずり、その中でも桜の園は憩いの場でした。今は建物がありませんが寿康館のステージで、入院患者様を前にコーラス部のメンバーと歌った事もありました。清瀬に来たばかりの私は骨身にしみる寒さに青森や草津より寒く感じ驚いたものです。看護師になるチャンスを下さったのが、鈴木様ご夫妻でした。草津の准看護学校で、入学する人が足りないのどうかというのがきっかけでした。

療養所としての東京病院は私の看護の原点と言えるほど患者様を通してたくさんの事を学びました。うれしい時も悲しい時も常に患者様が私の傍にいました。看護の世界に飛び込み、患者様が私を励ましてくれたことが、今日まで働く原動力になっているように思います。ある時は、子育てしながら働ける、働きやすい職場にしようと仲間と頑張った時もありました。喜怒哀楽をともに過ごした仲間たち。多くの思い出がつまった東京病院。結婚後、主人の両親と同居でしたが、家には女が一人いればいいからと、働く事を勧めてくれたお母さん、その一言があったから子供たちをお願いして、定年まで働く事ができました。私を公私共に支えて下さった皆様に、チャンスを下さった鈴木様に心から感謝しています。本当にありがとうございました。大好きな東京病院がますます発展していくことを心から願っています。これからは第二の人生のスタート。スタート出来る自分に乾杯！！

退職にあたって

4東病棟 看護助手 園田 幸美

昭和58年2月から、28年間勤めた東京病院を定年退職しました。

当時を振り返ってみますと、武蔵野を思わせる、自然に恵まれ、緑豊かな療養所でした。更衣棟に行く廊下から、良く手入れされた花壇にはチューリップが咲いていました。又、中庭続きの廊下をへびやトカゲ、ウシガエルなどに遭遇し、ビックリしたことを思い出します。周りを取り囲む緑の中で、春には、桜が満開の時は、たらの芽、こごみ、ふきのとうの山菜を楽しみ、夏には、水引草や、吾赤紅などが見られ、珍しいフクロウやカッコウ、青サギなどの野鳥たちの鳴き声

も森の中から聞こえてきました。季節の美しかったこと、通勤の行き帰りにとても癒されました。

時が過ぎるにつれ、敷地内の大きなブナの木や、クスギの木、五葉松など、多くの木が倒され、長い歴史の中では悲しい思いもしました。その中でほのぼのと感じたことがカルガモの子育てです。又、職員同士の交流もあり、レクリエーションや、旅行、スポーツにと盛り上がりました。40代の頃、東京病院女子ソフトボールチームを結成し、清瀬地区大会では、度々優勝旗を掲げた思い出もあります。今でも一緒に喜んだ友の顔が浮かんできます。

今ではとても考えられないことですが、病院全体にゆとりがあったように思えます。助手も当初は病棟に3人配置され、やがて2人配置となり、とてもきれいな新しい東京病院に建て替えられてからは、1人配置になりました。助手業務もかなり変わり、環境整備などもなかなか満足する仕事が出来なくなったように思います。

毎日忙しい仕事の中、患者様からの温かい励ましの言葉、何より日々の業務の中で励みになりました。これまでたくさんの方々に支えられ、このような懐かしい思いをたくさん持って定年を迎えられたことを深く感謝しております。職員の皆様、患者の皆様、これまで本当にありがとうございました。

退職に向けて

7東病棟 看護助手 金澤 康子

昭和60年4月に入職をし、国立療養所東京病院に看護助手として働き始めました。最初は7病棟に配属になりました。

当時は、看護助手は3人の早番、遅番の勤務体制で、仕事を覚えるのが大変でしたが、働き始めることができました。また、病院の中が広く、病棟まで行くまでに迷子になったことを昨日のように思い出します。日に日に仕事にもの慣れ、病院の職員の方々、患者さんとのふれあいを大切にしながら、楽しく仕事をしてきました。

月日が流れるのは早いもので、この3月をもって退職になります。

その間に、建物が新棟になり、病院の名前も独立行政法人国立病院機構東京病院に変わりましたが、助け合う気持ちは変わっていないと思います。

退職まで仕事をする事ができたのは、スタッフの皆さんの温かい支援と患者さんとのふれあいがあったからだと考えております。

本当に長い間、病院で働かせていただきましてありがとうございました。

外来の近況報告

外来看護師長 吉田 ひろみ

外来患者さんにとって12月からの電子カルテに変更となってから、待ち時間の増加などの混乱をさせてしまい、ご迷惑おかけしてしまい、すみませんでした。3ヶ月が経過し少しずつ混乱は解消しているようですが、軌道に乗るまでは、今しばらく時間がかかりそうです。来院の患者さんには温かく見守って頂ければ幸いです。

電子カルテに伴いまして、外来サービスの一貫として検査説明コーナーを設けました。各診療科が終了し、いろいろな検査が医師からオーダーされますが、会計終了後、まとめて医師の指示確認をしながら説明用紙の発行をしています。業務の効率化を図り、患者さんを出来るだけお待たせしない工夫を思考錯誤しながら改善しておりますので、ご意見等ございましたら、ご連絡頂ければと存じます。

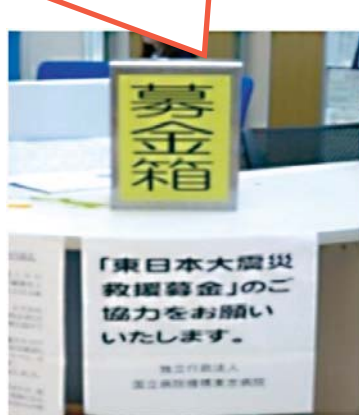
毎年のことですが、4月より外来担当医師表が担当科によって若干異動があり、変更があります。受診の際は確認されてから、来院して頂ければ混乱は避けられと思いますので、予約センターにご連絡、ご確認下さい。

先日3月11日の東北関東地震の際は、皆さまも大変驚かれた事と存じます。当院は幸い建物自体の大きな被害は無かったので、幸いでしたが、被災地の被害が大きく報道され、他人事でないのは当然の事です。当院へ通院されている患者さんも計画停電の影響で来院できないケースが実際に起きていたのも事実です。今後も、計画停電の影響はいつ起こるかもしれません。当院も節電に協力していますので若干薄暗く感じることをご了承ください。

また、計画停電で、人工呼吸器をご使用の患者さんは、不安な毎日をお過ごしのことと思います。当院では24時間人工呼吸器が必要な患者さんの受入も行っていますので、連携までお電話下さい。災害地への募金活動も行っていました。沢山のご協力ありがとうございました。(3月末で終了)



救急外来は、当院かかりつけの患者さん中心として、夜間帯も緊急時は受け入れを行っています。呼吸器科は、担当医師がおります。その他の科はいない場合がありますので、電話で確認をしてから来院して下さい。



予約センター内に看護師検査説明コーナーが設置され、医師から検査の予定が指示された患者さんはこちらにお寄り下さい。詳しい検査の注意事項を書いた用紙をお渡しします。



プライバシー確保のためにリニューアルされました。



第4回 東京病院連携医交流会を終えて

平成23年1月25日に第4回東京病院連携医交流会を行いました。院外からは24名の連携医をはじめ、理学療法士、看護師の方などに参加いただきました。院内からは31名が参加しました。開会の挨拶として院長が病院の取り組み、とりわけ救急告示や電子カルテなどについて話しました。交流会では当院の最大の特徴であり、最大の強みである呼吸器疾患センターの取り組みについて赤川呼吸器センター長が話しました。呼吸器全般をカバーできる豊富な人材と実績がわかる内容でした。次に消化器外科の診療について後藤外科医長より非常に興味深く具体例を挙げてお話ししました。最後に呼吸器外科の診療について竹内呼吸器外科医長が地図を使い紹介元の数などの現状報告と呼吸器外科の診療実績を報告しました。質疑応答も活発に行われました。最後に軽食を囲みながら、当院の各診療科などの紹介のあと、参加いただきました連携医の先生や医療スタッフの方に自己紹介をしていただき、診療情報書だけではわからない素顔の交流ができました。今後の地域医療連携の発展につながる交流会は盛会のうちに終えることができました。今後とも地域医療連携交流会にたくさんの方に参加していただけるようプログラムを考えてゆきたいと存じます。

地域医療連携部長 相澤 仁志

当日は、このような内容で
交流会が行われました。

第4回 東京病院連携医交流会 プログラム

日時 平成23年1月25日(火) 19:30~21:30

場所 国立病院機構東京病院 2階大会議室
東京都清瀬市竹丘3-1-1 TEL042-491-2111

開会挨拶 19:30~19:35

国立病院機構東京病院 院長 中島由槻(世話人代表)

「連携医交流会」19:35~21:25

総司会: 地域医療連携部長 相澤仁志

1. 「呼吸器センターの取り組みと救急体制」

座長: 川辺内科クリニック 院長 川邊芳子
演者: 国立病院機構東京病院 呼吸器科部長 赤川志のぶ

2. 「消化器外科の診療」

座長: 酒井医院 院長 酒井俊太
演者: 国立病院機構東京病院 外科医長 後藤振一郎

3. 「呼吸器外科の診療」

座長: 杉本医院 院長 杉本正邦
演者: 国立病院機構東京病院 呼吸器外科医長 竹内恵理保

4. 「交流会」(診療科の紹介、連携医の紹介)

軽食あり

閉会挨拶 21:25~21:30

中島医院 院長 中島美知子(世話人副代表)

◇東京病院の感染症対策整備◇

本年度、新型インフルエンザ等に対応するための感染隔離工事、医療機器整備が行われました。

東京都の方針として、近年の感染症を取り巻く状況の変化に伴い発生する新型インフルエンザや重症急性呼吸器症候群(SARS)等、新たな感染症に備え、感染拡大の防止及び感染症の患者に対する良質かつ適切な医療提供体制を確保し、感染症に迅速かつ適切に対応することを目的として、感染症発生時に外来、入院を必要な医療を提供する医療機関の整備に促進することを目的としております。

当院では、これに賛同して積極的に参加すること決定し、本年度に感染症患者を受け入れる廊下・部屋の隔離工事、人工呼吸器・ポータブルレントゲン装置など医療機器の購入を3月に終了し、今後利用していきます。

これにより、新型インフルエンザ等が発生した場合の体制がとれるようになりました。

現在入院中の患者様に置かれましては、通常はこれまでどおり、有事の際には11床の個室を移動仕切壁で隔離し、独立の換気・排気、ヘパフィルター等で感染を隔離します。隔離病室以外の患者様には全く影響が無いように作られておりますのでご安心下さい。

工事中は、騒音、埃などに患者様にはご迷惑をお掛けしましたが、無事皆様のご協力で終了いたしました。この場を借りて御礼を申し上げます。

業務班長 土屋

ヘパフィルター付パーティション



移動用アイソレーター



陰圧テント



平成22年度の医療安全研修会について

医療安全管理係長 沼沢 百代

22年度における医療安全研修会について紙面をお借りして、ご報告いたします。

医療安全に関する活動を理解し、日頃からご協力いただきありがとうございます。医療安全は医療の質の根幹をなす重要な部分です。

また、その範囲は多岐にわたっています。

平成22年度の全職員対象の研修としては

①医療ガスの安全な取扱い（安全衛生委員会と共催）
参加者数、91名

②3b以上の事例についての報告会 参加者数、124名（3bとは1～5段階に患者さんへの影響レベルを分けた指標で、3b以上の事例が事故事例として関信本部との本医療評価機構に報告）を行いました。

また、薬剤師、看護師対象に「麻薬の取扱い」を2回実施し、150名と多数参加していただきました。前述の3b以上の事例については、実際に当院

で発生した事例を、職員として知る必要があるとの中島院長の強い危機管理意識から開催することになりました。報告していただいた医師の皆さまには、大変負担をおかけ致しましたが、終了後のアンケートからは、このような研修会は必要との意見が多く聞かれていました。看護師対象としては薬剤科の協力のもと、「静脈注射の安全な実施」を開催 47名参加し内容も日常的に使用している危険な薬剤について知ることが出来たと、好評でした。

職員全体の研修については、対象の職種が幅広くどのような内容が適切かは苦慮するところです。皆さまからのご意見がありましたら是非伺いたいところです。

最後に昨年からの救急告示など東京病院の医療の役割は年々変化してきました。その中で全職員が協力し、患者さんを中心にしたチーム医療の推進が、安全な医療の提供につながると思います。

第8回結核研修セミナー

第8回結核研修セミナーが、平成23年2月5日（土）午後1時半より、神田の学士会館本館にて開催された。この結核セミナーは、当初は厚生労働省の委託事業として開始されたが、現在では、東京病院独自の教育研修事業として、東京都医師会との共催で年一回行われているものである。

今回で8回目となるセミナーは、まず、東京都医師会理事の小林弘幸先生の開会の辞で幕を開け、続いて中島院長の基調挨拶があり、最近の結核の動向が報告された。このあと、講演に移り、まず、小林東京都医師会理事の座長で、東京都福祉保険局健康安全部感染対策課長である成田友代先生による、「東京都の結核の現状と対策」と題した講演が行われた。ここでは、東京都の結核罹患率などの話のあと、平成17年に始まった「東京都結核予防計画」の進行状況などが紹介された。続いて、永井英明外来診療部長の座長で、呼吸器科医長の山根章先生の「結核診断の実際」の講演があり、主として胸部X線の画像所見を中心として、結核の診断方法についての講演があった。そのあと、益田公彦呼吸器科医長の座長により、呼吸器科大島信治先生により「結核治療のポイント」と題した講演があり、主として化学療法を中心とした結核治療の実際について、具体的な治療法が話された。

ここまでの前半部分は、例年、東京都の結核行政、結核の診断、結核の治療という三本立てで、同じテーマながら講師を人選して、切り口を変えて講

演していただき、毎年出席されている方々にも好評を得ている。休憩を挟んだ後半は、トピックの話題と外部講師講演のふたつとなっており、今回は、赤川志のぶ呼吸器科診療部長の座長による、呼吸器科鈴木純子先生による「結核後遺症としての肺アスペルギルス症、非結核抗酸菌症」の講演と、豊田恵美子呼吸器科医長の座長による「潜在性結核感染症の概念と診療 - 低蔓延に向けての戦略 -」と題した、川辺内科クリニック院長である川辺芳子先生の講演が行われた。鈴木先生は、肺結核治療後にみられる、代表的な肺感染症として、肺アスペルギルス症や非結核抗酸菌症などをとりあげて、病態、検査、画像所見、診断および再診の治療について詳しく述べられた。川辺先生は、日頃関心を持っておられる潜在性結核感染症（LTBI: Latent Tuberculosis Infection）を中心としてお話をされ、その歴史、概念、診断、注意すべきことなどについて言及された。

この結核セミナーは、対外的な公開講座ではあるが、当院の代表的疾患とも言える結核について網羅的な知識をいちどに会得するには非常に有用な機会である。東京病院の職員の皆さんも、その職種ごとでのエキスパートではあるものの、全体的な知識は不十分なところもあると思われる。また、結核の常識や知識も年々進化している。興味ある方は、是非とも次回のセミナーに参加し、結核の新しい知識を身につけていただきたい。

（統括診療部長 庄司 俊輔）

独立行政法人国立病院機構 東京病院
外来診療担当医師表

(平成23年4月7日 現在)

〒204-8585 東京都清瀬市竹丘3-1-1 TEL 042-491-2111 FAX 042-494-2168

< 予約センター > TEL 042-491-2181 ※平日の8時30分～15時00分

< 地域医療連携室 > TEL 042-491-2934 FAX 042-491-2125 ※平日の8時30分～15時30分 (医療機関からの問合せを除く)

【診療時間】 平日の8時30分～17時15分 【受付時間】 午前診療：8時30分～11時00分 ※再来の方は8時00分より受付
 ※土・日・祝日・年末年始は休診です 午後診療：12時30分～14時00分

診療科名		月		火		水		木		金	
		担当医名		担当医名		担当医名		担当医名		担当医名	
呼吸器科	新患・再来	午前	当番医	午前	当番医	午前	当番医	午前	当番医	午前	当番医
	再来	午前	松井(弘)	午前	☆赤川	午前	永井	午前	豊田	午前	田村
			☆益田		大島		長山		鈴木(純子)		松井(弘)
			鈴木(純子)		川島		赤司		有賀		和田
			鈴木(淳)	吉田	有賀	川島					
			鈴木(純一)	午後	☆赤川		山根				
			☆荒木	☆日下		☆田村					
						☆益田					
	間質性肺炎					午前	赤川				
	非結核性抗酸菌症					午前	倉島				
	いびき・COPD	午前	当番医	午前	当番医	午前	松井(弘)	午前	当番医	午前	当番医
	アスベスト					午前	臼井				
セカンドオピニオン(肺がん)							午後	☆田村			
感染症							午後	永井			
								益田			
								川島			
禁煙					午前	☆臼井					
消化器科	新患・再来	午前	当番医	午前	当番医	午前	当番医	午前	当番医	午前	当番医
	再来	午前	上司	午前	田中	午前	☆矢倉	午前	☆上司 ※1	午前	☆矢倉
		午後	☆瀬尾	午前	☆井利			午後	☆時田	午後	田中
								午後	☆矢倉		
糖尿病 ※再来のみ							午後	☆滝沢			
循環器科	新患・再来	午前	茅野			午前	松永	午前	岡橋	午前	茅野
	再来	午前	☆松永								松永
神経内科	新患・再来	午前	城山	午前	栗崎 相澤	午前	栗崎	午前	栗崎	午前	中村
	ものわすれ 高次脳機能障害					午後	☆栗崎				
								午後	☆栗崎		
呼吸器外科	新患・再来	午前	当番医	午前	井上(雄)	午前	桑野	午前	中島	午前	竹内
	再来									午前	上野 日野
消化器外科	新患・再来	午前	当番医	午前	後藤 趙	午前	当番医 趙	午前	当番医 中田	午前	後藤 元吉
			伊藤	午後	後藤						
		肝胆脾外科								午後	☆元吉
リハビリ テーション科	新患	午前	濱田	午前	伊藤(郁)/濱田	午前	伊藤(郁)			午前	新藤
	再来	午前	伊藤(郁)	午前	新藤	午前	佐藤			午前	濱田
	地域リハビリ相談							午前	☆新藤		
眼科	新患・再来	午前	山田	午前	山田	午前	山田	午前	山田	午前	中山
			中山		中山		中山		中山		
整形外科	新患・再来	午前	☆堀	午前	堀	午前	堀			午前	堀
アレルギー科(喘息)	新患・再来	午前	庄司	午前	有賀	午前	庄司	午前	庄司	午前	大島
放射線科	新患・再来									午前	三上
泌尿器科	新患・再来	午前	浅野					午後	朝隈 ※2	午後	實重 ※2
耳鼻咽喉科	新患・再来			午前	当番医						
緩和ケア科	新患							午前	三上	午前	永井
総合内科	新患	午前	茅野	午前	相澤	午前	瀬尾				

☆：予約の患者さまのみの診療です ※1：第2・4木曜日だけの診療です ※2：受付は12時30分～14時30分までとなります

専門外来案内

専門外来名		診察日	このようなことでお悩みの方は、ご相談ください
呼吸器関係外来	禁煙(予約制)	水(午前)	タバコがどうしてもやめられない方。 (当院の禁煙外来は、平成20年1月より保険が適用となりました。)
	肺がんセカンドオピニオン(予約制)	木(午後)	肺がん治療についてのセカンドオピニオンを希望される方。[1時間まで10,500円]
	間質性肺炎	水(午前)	この病気は「息切れ」と「から咳」がよくある症状です。 治療が難しく、膠原病に合併する場合があります。
	非結核性抗酸菌症	水(午前)	咳や痰が出て、血痰があるなど一見結核にみえますが違います。 結核とそっくりの症状がこの疾病です。他人への感染はありません。
	いびきCOPD (睡眠時無呼吸症候群の検査)	月～金(午前)	ご家族などから「いびきが大きい、長く続く」あるいは「ねている時に息が止まる」などと言われた方。COPDを疑われたり、COPD呼吸リハビリを御希望の方。
	アスベスト(予約制)	水(午前)	アスベスト(石綿)を扱うお仕事をされた方。 アスベスト吸入による肺の病気についてご心配な方(予約制です)
ものわれ外来	水(午後)	最近ものわれのひどい方、アルツハイマー病などが心配な方。 (あらかじめ神経内科を受診して下さい。)	
高次脳機能外来	木(午後)	失語・失行や健忘などの診断、リハビリテーションへの紹介など(要神経内科外来受診。)	
肝胆脾	金(午後)	肝臓癌、胆嚢癌、胆管癌、膵臓癌や胆石症など、肝胆脾疾患の手術のご相談、お申し込み、セカンドオピニオン等に、専門の医師が対応いたします。	
地域リハビリ相談	木(午前)	連携医の先生方からかかりつけの患者様で、運動・言語・嚥下機能に問題があり、リハビリテーションをご希望の方。(かかりつけ医の情報提供書が必要です。)	

診療時間 8:30～17:15
 受付時間 午前8:30～11:00 午後12:30～14:00
 休診日 土・日・祝祭日および年末年始(12月29日～1月3日)

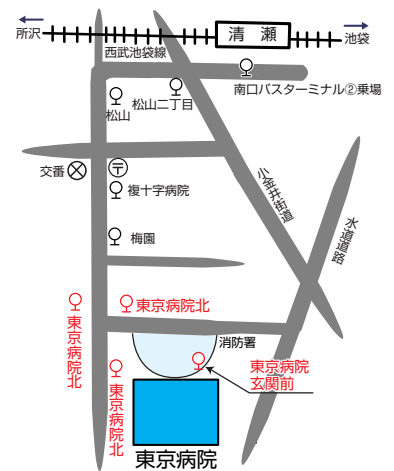
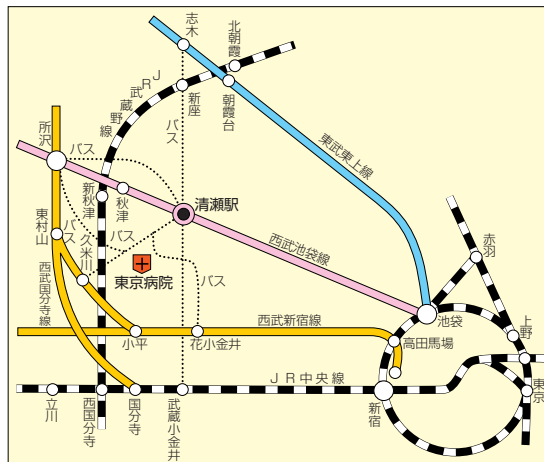
予約センター 042-491-2181
 (受付時間平日8:30～15:00まで)

医療連携室よりお知らせ 患者様をご紹介いただく場合(医療機関)

外来診療の予約 : 診療依頼書をFAX送信して下さい FAX 042-491-2125(8:30～15:30)
 CT・MRI検査の申し込み : 医療連携室へお電話下さい TEL 042-491-2934(8:30～17:15)

診療内容 病床数560床

- 総合内科科
- 呼吸器科科
- 消化器科科
- 循環器科科
- リハビリテーション科科
- 呼吸器外科科
- 消化器外科科
- 神経内科科
- 放射線科科
- 麻酔科科
- 整形外科科
- 緩和ケア科科
- アレルギー科科
- 泌尿器科科
- 耳鼻咽喉科科



交通

- 西武池袋線 清瀬駅南口よりタクシー5分、または南口バス2番乗り場より久米川駅行・所沢駅東口行は東京病院北下車、下里団地行・滝山営業所行・花小金井駅行は東京病院玄関前下車。(早朝夜間など東京病院玄関前を経由しない場合があります。)
- JR武蔵野線 新秋津駅よりタクシー10分、または西武池袋線に乗り換え。
- 西武新宿線 久米川駅北口より清瀬駅南口行で東京病院北下車。または花小金井駅北口より清瀬駅南口行きで東京病院玄関前下車。(早朝夜間など東京病院玄関前を経由しない場合があります。)
- JR中央線 武蔵小金井駅より清瀬駅南口行のバス路線があります。
- 東武東上線 志木駅南口より清瀬駅北口行のバス路線があります。
- お車で越しの際は正面よりお入り下さい。(駐車場265台)
 - 30分以内 無料
 - 31分～4時間 100円
 - 以後1時間毎 100円
 - (20時15分～7時 1時間毎300円)